



No.172
2014年3月

こども大会

登場人物と一緒に一喜一憂！

今年度の「こども大会」は、平成25年12月7日（土）の開催でした。

寒い中、100名を超える参加をいただき、ありがとうございました。

大型絵本の読み聞かせや、パネルシアターを使った手遊び、手品、人形劇など、盛りだくさんの内容でしたが、参加型のプログラムが多かったため、小さいお子さんも最後まで楽しめた、とのご感想を多数いただきました。

中でも、人形劇「さんびきのこぶた」では、「こぶた」が、「おおかみ」に食べられないかと心配でドキドキはらはらしたり、「こぶた」がうまく逃げられるように応援したりと、真剣なまなざしでお話の世界に入り込んでいる様子に、スタッフ一同大感激でした。

また、会場の外の「しきけ絵本」の展示も、見たり触ったりしながら、子どもから大人まで楽しんでいただけたようです。

平成26年度も同じ時期に開催を予定しております。

次回もたくさんのご参加をお待ちしています。



もくじ

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ◎ こども大会～登場人物と一緒に一喜一憂！～ | P 1 |
| ◎ 県公共図書館等協議会表彰団体紹介 | P 2 |
| ◎ 資料紹介＜人間の能力(身体・感性)の不思議＞ | P 3 |
| ◎ 第30回県立長崎図書館講座・長崎ゆかりの文学展第4回企画展 | P 4 |
| ◎ 県内図書館散歩・職場体験活動紹介 | P 5 |
| ◎ お知らせ、行事案内等 | P 6 |

県公共図書館等協議会表彰団体紹介

●長崎・図書館との会（長崎市）



長崎市立図書館が開館する半年前の平成19年6月に、「長崎・図書館をつくろう会」のメンバーが中心となって、「長崎・図書館との会」を結成し、現在は個人会員29名と団体会員6団体で活動しています。

結成当初はやっとできる市立図書館に心躍り、図書館の力になれたらと走りだしたもの、何をしたらいいか悩んでばかりでしたが、いつのまにか6年が過ぎ、「図書館バッグの製作寄贈」、「布の絵本講習会」、「おはなし会開催」「市立図書館リサイクル市の手伝い」等活動は少しずつ広がっています。

図書館バッグの製作は、布を寄付してくださる方、縫ってくださる方など会員外からの協力も多く、すでに1,250枚の布のバッグを市立図書館に寄贈しています。

布の絵本講習会では、参加してくださった方に1ページずつ作っていただき、それをまとめて1冊の絵本に仕上げるのですが、子供さんやお孫さんと参加される方もあり、幅広い年代が集って一つの作品をつくっていく時間は、とてもほのぼのとしています。

今年度は市立図書館のリサイクル市の手伝いで培った経験をもとに、滑石公民館にリサイクル市を提案し共催できました。私たちが企画し実現できたことは大きな自信となりましたが、これはいつも私たちを応援してくださる市立図書館の方々や、私たちの提案を快く受け入れ、協力してくださった滑石公民館の方々のお陰と感謝しています。

今回の表彰は嬉しい驚きとともに私たちをとても力づけてくれました。ありがとうございました。

●中地区公民館図書ボランティアおはなしの会「ぽかぽか」（大村市）



今回の受賞にあたり、関係各位の皆さんに心から感謝申し上げます。

私たちの活動は昭和57年に中地区公民館図書室の協力員として絵本の読み聞かせ等の『おはなしの会』からスタートしました。多くの方のご協力により、今までバトンが途切れることなく繋がれ、今年で32年目となります。

例会は、毎週月曜日、午後2時間程度開き『おはなしのつどい』に向けての計画・制作・演技練習をしています。また、近隣の保育所、幼稚園、特別支援学校、学童施設から依頼を受けて出向きます。

『おはなしのつどい』は、公民館行事の一環として毎年7月・12月に開催されます。内容は1時間のプログラムで構成し、エプロンシアター・パネルシアター・大型絵本・紙芝居・ストーリーテリング・歌・手遊び・影絵・ペーパーサート・人形劇等の中から4~5種類選んで上演します。来場者は、幼児連れの親子・保育所・学童施設の子どもや職員等で、少ないときは60名程度、多いときは150名を超えることもあります。

『おはなしの会』の活動は、人肌の温もりを伝え、感じ合うことができるものではないでしょうか。『おはなしのつどい』では、子どもたちが本来持つ優しさや勇気・思いやり・正義感等、普段は表立って出てこない感情も、物語の愉快な場面、悲しい場面、怖い場面等々の展開に合わせて、登場人物に共感して表面化してくる。子どもたちの内に秘めた豊かな気持ちを、そして笑顔を引き出せたとき私たちの活動は実を結びます。

最後に、子どもたちのためにと活動を続けていますが、実は、子どもたちのおかげで高齢化していく私たちの方がいきいきと張りのある生活を送らせてもらっているようです。

資料紹介～人間の能力(身体・感性)の不思議～

近頃の新聞等を賑わせているニュースの中に i P S 細胞（人工多能性幹細胞）、S T A P 細胞（刺激惹起性多能性獲得細胞）という言葉があります。これらの研究が進むと、臓器再生やがんの抑制技術に結びつく可能性があり、夢の若返りも目指せるかも知れないとのことです。

科学や医療の進歩により生命の可能性が広がってきていた私たち人間には、そもそもどのような能力や感性が備わっているのでしょうか。今回は、人間の能力（身体・感性）の不思議について書かれた本をいくつかご紹介します。



『涙の理由
～人はなぜ涙を流すのか』
(著) 重松 清・茂木 健一郎
(発) 宝島社

小説家と脳科学者の対談です。それぞれの立場で、涙の理由を考えていきます。

茂木氏は「悲しくて泣くことも（くすぐったいという感覚と）同じくらい高度なことで（中略）痛みを感じて叫び声を上げるなどの行動に、人間の脳の高度な認知の働きが加わって、悲しみという感情ができているのではないかとは言えます。」と話しています。

*「 」は本文より引用

『ヒトの「超」ひみつを知ろう』
(著) ジュディス・ハーブスト
(発) 晶文社

この本は、予知、テレパシー、臨死体験など古今東西の驚異のエピソードをとおして、超常現象の謎に科学の目から挑むサイエンス・エッセイです。



『人はなぜ
恥ずかしがるのか』
(著) 菅原 健介
(発) サイエンス社



著者は社会心理学者です。他の動物には見られない人間の“恥じる”という行為は何かの役に立つのだろうか、なぜ人は恥ずかしがるのだろうかという疑問を追及していきます。

中公新書ラクレ
『「五感力」を育てる』
(著) 斎藤 孝・山下 柚実
(発) 中央公論新社



おんぶのできない母親、抱っこ嫌いの赤ちゃん一いま若年層の身体が悲鳴を上げているのは、五感の機能を喪失させた社会の歪みが原因なのではないか。いかにして、五感力を取り戻し、鍛え上げていけばよいのかを考えていきます。

『わたしを離さないで』 (著) カズオ・イシグロ (発) 早川書房

前記の『涙の理由』の中にも紹介されていて、その中で茂木氏は「とても恐ろしい小説です」と言っています。この小説は臓器移植のために施設で育てられる子供たちが主人公です。著者のカズオ・イシグロ（長崎市出身）はこの小説について「人生は短いから尊い、とだけいいたかったわけではない。人間にとて何が大切かを聞かなければかった。」*と話しています。 *「 」は2011年英国大使館での記者会見より抜粋



第30回 県立長崎図書館講座

講演「顧みられない命のために～国境なき医師団の活動とは～」を開催しました。

昨年の11月10日（日）に、医師で国境なき医師団日本会長の黒崎伸子氏を講師にお招きし、講演「顧みられない命のために～国境なき医師団の活動とは～」と題する図書館講座を開催しました。

講演では、昨年の4～5月に黒崎氏が従事した激しい内戦が続くシリアでの活動をはじめとして、様々な国における国境なき医師団の緊急医療援助活動の内容と実態について、写真を交えながらお話をしていただきました。活動のリスクが増大し、そのニーズも多様化する中で懸命な医療援助を続ける国境なき医師団の具体的なお話



講師の黒崎伸子氏



に聴衆は聞き入っていました。活動を振り返り「限られた状況の中で仲間と一緒に提供する医療によって、生命をつなぐことができた喜びを人々と分かち合うことができる」と語る黒崎氏のお話からは、医師としての強い使命感や責任感が伝わってきました。

受講者からは、「国境なき医師団の活動内容を、長崎出身の先生から直接話を聞くことができて大変勉強になりました。」「とてもよい講座で話の内容に感動しました。黒崎先生の生き方にも感銘を受けました。」等の感想が寄せられ大変好評でした。

長崎ゆかりの文学展のご紹介 第4回企画展「収蔵品展～長崎の文学者とふるさと～」

4月6日(日)まで
開催中

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年4回の企画展を開催しています。

今年度最後の企画展は、「収蔵品展～長崎の文学者とふるさと～」です。

長崎では、その豊かな自然や歴史、風土を色濃く反映した様々な文学作品が育まれてきました。

今回の企画展では、佐多稻子、山本健吉、伊東静雄、野呂邦暢、福田清人、井上光晴、風木雲太郎などの長崎ゆかりの文学者たちのふるさとへの思いが伺える作品や本館が所蔵する関連資料等を紹介し、長崎の文学の豊かな香りをお伝えしています。



それぞれの文学者の作品や直筆資料、文学碑の写真等を展示しています。佐多稻子直筆原稿「作品で結んだ故郷との縁」「子供の世界の流行」、伊東静雄の直筆はがき、野呂邦暢の直筆特製本「夜の船」「鳥たちの河口」と直筆色紙、井上光晴の原稿「私の中のふるさと」と直筆色紙は本館初公開です。

長崎の文学者たちのふるさとへの深い愛着が伺える作品をご紹介しています。会期は4月6日（日）までです。この機会にぜひご来館ください。



シリーズ 県内図書館散歩⑫

— 南島原市有宗図書館・
西有宗図書館・原城図書館 —



有家図書館は平成9年に開館し、演劇、コンサートなどが行われる有家コレジョホールの中にあります。

定期的に未就学児対象の「赤ちゃんおはなし会」、ボランティアの方々による読み聞かせなどを行っています。利用してくださる方にも気軽に声をかけていただき、利用者同士も情報を交換しあえる楽しい空間です。

これからも、ますますみなさんのオアシスとなる図書館を目指し頑張っていきます。

西有家図書館は公民館・図書館の複合施設「西有家総合学習センター カムス」の2階に平成16年3月に開館しました。

施設の愛称「カムス(CMS)」はチャイルド・ミドル・シルバーの頭文字からなり、子どもからお年寄り誰もが自由に学習し交流しあう場でありたいという精神のもと命名されました。

お陰様で今年度10周年を迎えます。今一度初心に戻り、市民の生涯学習の拠点として本と人、そして人と人とのつなぐお手伝いをしていきたいと思っています。



夏休みの料理教室の様子



原城図書館は平成26年3月5日で開館8周年を迎えるました。

8周年記念イベントとして、3月2日「人形芝居」かすべるさんをお呼びし人形劇の公演を行いました。多くの方に来ていただきありがとうございました。

原城図書館では、世界遺産関連書籍の収集に力を入れています。昨年から古文書展示コーナーを新設し、「島原・天草一揆」に関する古文書の常設展示を一般公開しております。

事前に図書館へ連絡を頂けると、展示資料に関して南島原市教委文化財課調査員の稻益あゆみさんからの話を聞くこともできます。

是非ご来館下さい。お待ちしております。

職場体験活動の紹介

長崎県立長崎東中学校 2年
赤井 彩音さん・星野 公邦さん

長崎県立長崎図書館での職場体験学習で、私たちはまずその本の多さに驚きました。体験の中に、書庫から本を取ってくるという作業がありましたが、本を探すのは大変でした。また、古い昔の新聞も大切に保管されていることに驚きました。



しかし、大量の本が収められている書庫も、もちろん貸し出し用の本が並ぶ本棚も、きれいに整理されていました。「この状態を保ちたい」と、本棚の本を並べる作業にも、自然と力が入りました。きれいになった本棚を見ると、達成感を味わうことができ、とても嬉しかったです。



長崎発読書郵便集第6号 刊行のお知らせ

県立長崎図書館及び長崎県公共図書館等協議会では県内市町立図書館等と協力し、子どもの読書活動推進のため、「子ども読書の日（4月23日）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一助となるよう、本冊子『長崎発読書郵便集～この感動をあなたへ伝えたい』を刊行し、県内の子ども読書活動推進イベントなどで活用していただいている。

今回も県内各地から2,825点に及ぶ子どもたちのすばらしい作品を募ることができました。

本冊子にふれてみて、お気に入りの一冊を見つけたら、次はあなたが、お友だちへ紹介してみてください。

過去に作成しました第1号～第5号も好評をいただいており、本館のホームページからもご覧ることができます。あわせてご活用ください。

本館ホームページアドレス

<http://www.lib.pref.nagasaki.jp/news/dokusyoyubin.html>

読書郵便とは

友だちや大切な人に読んでもらいたい本を、郵便はがき形式で紹介したものです。



長崎発読書郵便集第6号



県立長崎図書館からのお願い

卒業・入学・異動の季節です。

借りたままになっている本はありませんか？

万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いします。

※玄関横の返却ポスト（24時間対応）へ返却も可能です。図書館の本は県民共有の財産です。

また、住所等連絡先の変更があった方は、県立長崎図書館までお知らせください。

催し物のご案内

平成26年度「長崎ゆかりの文学展」 (第1回企画展)

「長崎の文学とキリスト教」

(平成26年4月22日～平成26年6月22日)

場所：県立長崎図書館4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00 (ただし休館日を除く)

第31回(平成26年度第1回) 県立長崎図書館講座

「長崎の文学とキリスト教」

「浦上四番崩れ」をめぐる文学ー

講師：奥野政元氏（活水学院院長）

日時：平成26年5月25日（日）13:30～15:30

場所：県立長崎図書館2階講堂